



耐病虫性・多収でイソフラボン含量が高い大豆新品种「ふくいぶき」

水田利用部 大豆育種研究室 0187-75-1084

研究のねらい

近年、農産物の機能性が注目されている。そこで、骨粗しょう症の予防や更年期障害緩和など様々な機能性を有する成分であるイソフラボンの含量が高く、かつ豆腐加工に適し、耐病虫性で多収な品種を育成する。

研究の成果

ダイズモザイクウイルスのA、B、CおよびDの各系統に抵抗性で、本病に強い。またダイズシストセンチュウ抵抗性を有している。

「スズユタカ」に比べて、倒伏抵抗性は強く、子実収量もやや多収である。

臍色は黄、種皮色は黄白であり、「スズユタカ」に比べて、粒の大きさがやや大きい「中の大」に属し、外観品質もやや優れる。

粗タンパク質含有率は「スズユタカ」とほぼ同等で、豆腐加工適性は良好である。子実のイソフラボン含量が高い(図2)ことから、イソフラボン含量が高い豆腐の製造が可能である。



ふくいぶき スズユタカ
図1 「ふくいぶき」の草姿

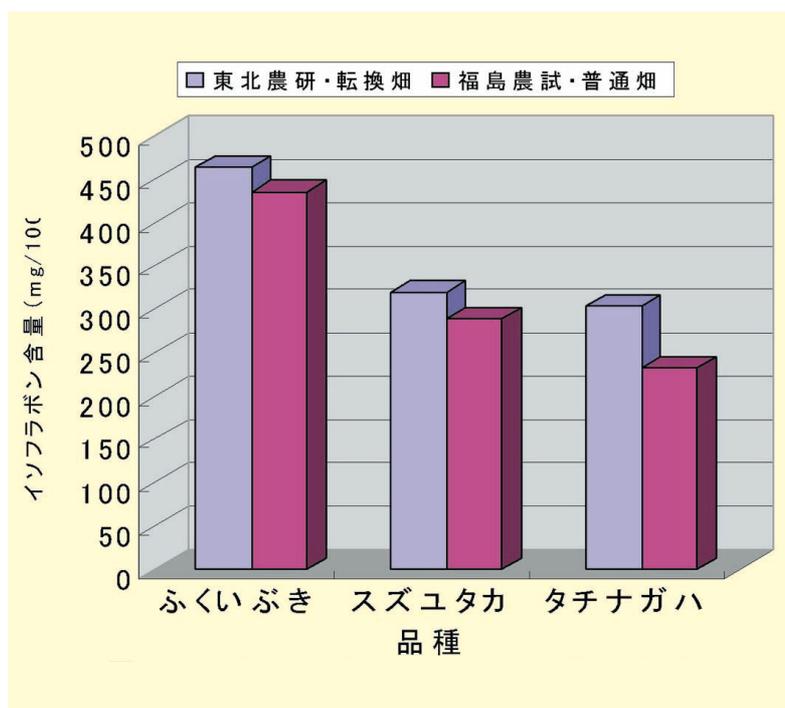


図2 品種の子実中のイソフラボン含量
注)東北農研は1999~2001年の平均、福島農試は2000年のデータ

成果の利活用

2002年に福島県の奨励品種として採用された。

栽培適地は東北南部および北陸地域である。

ダイズシストセンチュウ抵抗性を有しているが、連作は収量の低下や土壌伝染性病害の蔓延を招くので、適切な輪作のもとで栽培を行う。